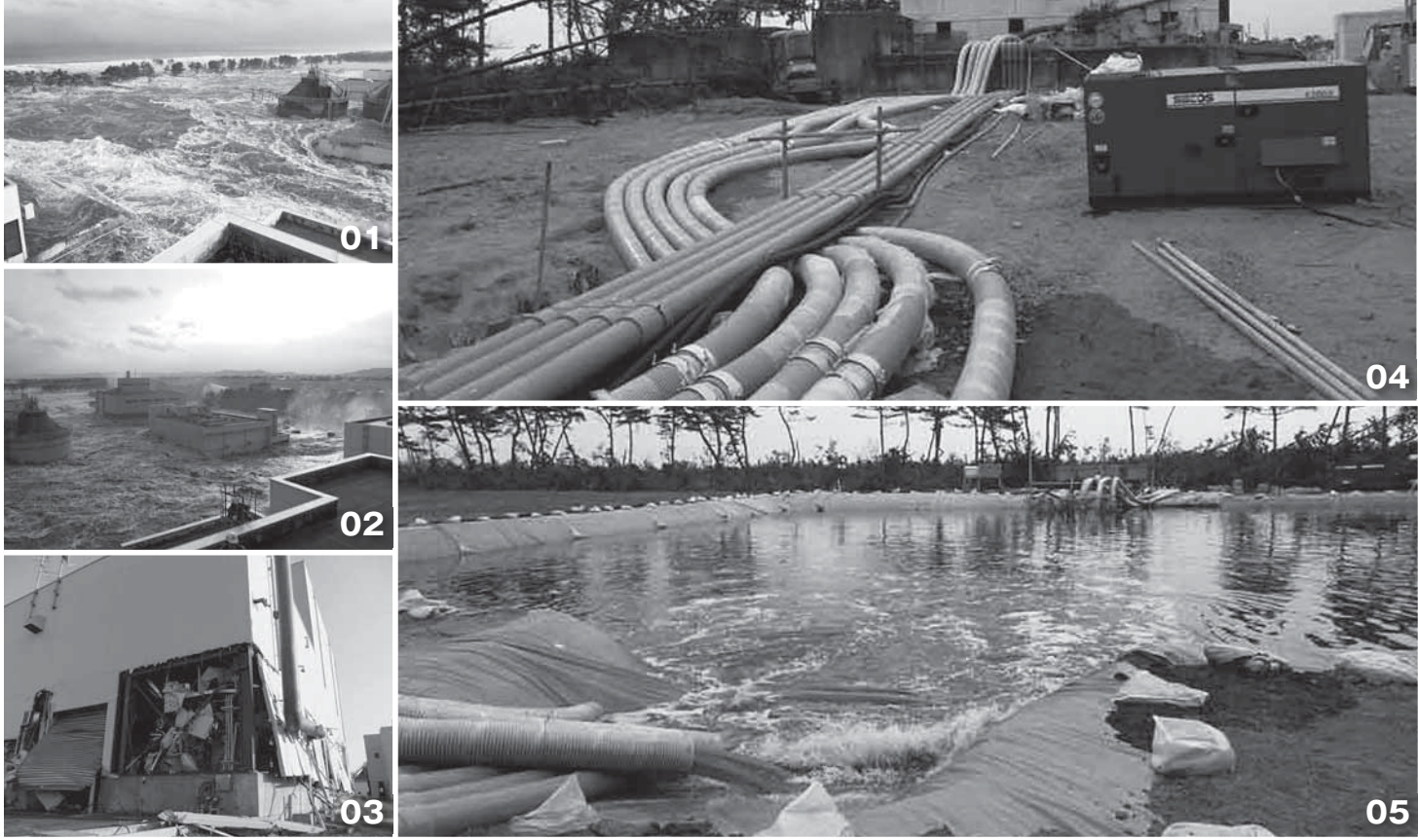




県南浄化センター被災状況 01 大津波来襲 02 処理場水没 03 処理場被災 04 溢水回避緊急対策 05 処理場内仮設沈殿池

写真提供：宮城県

■下水道施設の被害状況

東日本大震災により、液状化した道路や歩道からマンホールが浮き上がりました。マンホールには汚水が流れる下水道管が接続されており、下水道管も浮き上がったり、曲がったり、切断されたりと、甚大な被害を受け汚水が流れにくい状況です。市内の約18パーセントの下水道管が被害を受け、復旧には相当の期間を要する見込みです。

また、本市の公共下水道の汚水は、岩沼市の県南浄化センターに流れ微生物浄化してから海に放流されていました。しかし、処理場が甚大な被害を受け、汚水は沈殿・塩素消毒により応急的に処理し、海に放流されている状況です。復旧には約2年かかる見込みです。

■水道施設の被害状況

震災により、宮城県仙南・仙塩広域水道事務所が管理する送水管が破損。受水する配水池に水が来なくなり、断水しました。また、市が管理する水道管も方々で破損したため漏水が発生し、甚大な被害を受けました。市が管理する水道管は、総延長で約300キロメートルで、旧市街地は昭和20年代後半から昭和30年

代前半に敷設されたものが多く、老朽化と合わせ耐震性に課題があり、更新工事は5年以上かかる見込みです。

Q1 節水や排水で私たちにできることは

A1 ①洗い物は大きめの容器に水をはりその中で！ ②風呂水は洗濯に再利用！ ③シャワーヘッドに節水器具！ ④トイレトペーパーは流さずにごみに出す（※1）。⑤天ぷら油などの油は流さない（※2）。※1 トイレトペーパーは水に溶け細かい繊維になります。が、沈殿し汚泥になり、海や川に流れ出ます。下水処理場復旧までご協力ください。※2 油は下水管の中で固まり、詰まりの原因になります。

Q2 給水管などの管理は

A2 公道内に埋設されている部分は市の管理。宅地内の水道管や止水栓などの付属装置は所有者の管理です。宅地内で水道管などが破損したときは、市認定の給水工業者に修理を依頼してください。また、水道メーターは市の管理です。メーター本体に異常がある場合は、ご連絡ください。※市認定の給水工業者は市のホームページや市民便帳で公表しています。

Q3 道路から水がわき出しているときは

A3 道路の表面が雨も降らないのにぬれていたたり、水がわき出したりしている場合は、水道管が破損し漏水している可能性が大きく、放置すると道路が陥没したり重大な事故につながる恐れがありますので、ご連絡ください。

Q4 水道水に異常があったときは

A4 断水や水の勢いが弱くなったたり、濁ったり異常があったときは、ご近所も同じ状態か確認してください。ご近所も同じ状況であれば水道本管に問題がありますので、ご連絡ください。ご近所で異常がない場合は、個人宅内での給水管の破損などが考えられますので、市認定の給水装置工業者に調査を依頼してください。

白石市水道水の放射能測定結果

5月9日、白石市が所有する水源・簡易水道を東北大学に依頼し調査したところ、「二ツ森水源・三住簡易水道・湯元簡易水道・下戸沢簡易水道・上戸沢簡易水道」すべての水源・簡易水道で放射性物質は検出されませんでした。

原子力発電所の影響については、今後も迅速に対応できるよう努めていきます。

届けられた1通の手紙 ～感謝の思いを伝えたい～

5月18日、白石市役所あてに1通の封筒が届きました。

差出人は福島市に住む根本さんという男性。中には、災害復興のための寄付金とともに手紙が添えられていました。手紙には、根本さんの娘さんが体験した震災直後の心温まるエピソードが書かれていました。

白石市役所担当者 様

本来であれば直接出向いてお話をさせていただくのが筋なのですが手紙で失礼します。

実は私の娘が名取市内で大震災の被災者になり、その際に名取北高校の避難所でたくさんの宮城県民の皆さまに助けてもらいました。その中でも避難所で知り合った白石市内に居住する女子高生のお母さまには特段のご配慮をいただき、家に帰る手段のなかった娘を自宅まで帰れるようにしていただきました。（内容は同封のとおりです。）

お母さまの住所を調べて御礼をしたいと思います、それは相手さまの希望に添わないことであるので捜すことはしません。ですが、助けていただいた御恩をお返ししたいと思い、お母さまが生活している白石市内で被災に遭われた皆さまの一助になればと義援金を同封します。

どうかよろしくお願いいたします。

そこで広報担当者様にお願ひがあります。

同封した手紙を市の広報に載せていただき、私たち家族がどれだけ感謝しているのかお母さまに分かってもらいたいです。載せていただいた手紙を見れば、娘が自宅に帰ることができたことを知ってもらうことができるし喜んでもらえると思うからです。

今すぐとは言いませんが、どうかこの件について担当者様にご勘案いただき善処していただければ幸いです。

「ただいま。」

帰る術のない娘が何事もなく帰ってきました。どうやって帰ってきたかと聞くと奇跡のような帰還劇でした。高校生になる娘が女友達と名取市内に買い物に行き、未曾有の大震災に遭遇しましたが、不安な気持ちで一杯だった娘たちは、避難施設に連れて行ってもらったり食事を分けてもらったりするなど、宮城県民の皆さまに温かく助けていただいたそうです。中でも、名取北高校体育館で知り合った女子高生のお母さまにはどんな感謝の言葉を贈っても足りないほど助けていただきました。

そのお母さまは、自分の娘さんを避難施設に迎えにきた際、帰る当てのない私共の娘たちを気遣っていただき帰る途中だからと言ってJ R白石駅まで送ってくれて、「タクシー代をあげるからここから帰りなさい。」とおっしゃったそうです。

娘たちが固辞すると、今度はJ R白石駅前で福島ナンバーの車を必死に捜してくれました。しばらくして福島市内にある大学の送迎バスを見つけたくださって、運転手さんに福島市内まで乗せてくれるよう交渉し、バスに乗せて見送ってくれました。娘たちが御礼を言い名前を聞くと「こんな時は大人に甘えていいのよ。御礼なんか考えないでね。もしその気持ちがあるならあなたたちが大人になって困っている人がいたら今日のことを思い出して助けてあげて。」と言われたそうです。

私でしたらJ R白石駅までは送ってあげられますがそれ以上のことはできなかったと思いますし、車を捜し出すことまで機転が利かなかったでしょう。あの状況下で他人をここまで思いやることができたのはお母さまの普段からの心優しさや慈悲深さが伺えました。

娘からこの話を聞いて私たち夫婦は感謝の念と涙が止まりませんでした。娘には、「大変な思いをしたけれども、それ以上に人の優しさや大人のすごさを体験できたことを将来忘れないで、困っている人がいたら助けてあげなさい。それが恩返しになるんだから。」と話すとうなずいていました。

本来娘が被災したのですから親である私が助けに行かなければならなかったのですが、私は警察官をしており原発事故やその他業務で休みが取れない状況でした。また管轄外に旅行するときは承認が必要で、娘の助けに行くとはいえ私事のため承認をもらうことなど到底できなかったことから葛藤で心中穏やかではありませんでした。

宮城県民の皆さま、特に白石市内に居住する女子高生のお母さまへの御恩を私たち家族は一生忘れません。心に刻み少しでも受けた御恩を返すことができるよう頑張っていきたいと思います。

本当にありがとうございました。